

英語科授業指導案 都研132研修研究授業
「コミュニケーション重視の英語授業」～理論研究とワークショップ～

1, 授業日時

平成11年6月17日(木)

2, 授業者

滝口 均 (JTE) Andrzej Klimazewski (ALT)

3, 授業クラス 3年B組(男子16名, 女子17名)

このクラスは英語の能力差にある程度開きがあるクラスであるが、英語を話したいと願っている生徒や、英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思っている生徒は多い。教室での解説の授業に比べ、FL教室での授業「劇場型授業」は高いMotivationを示し、どちらかと言えば積極的に授業参加してくれる学級と言える。

4, 単元名

New Crown English Series3 Lesson4 part 1

5, 本時の目標

教科書Lesson4 part 1の内容をペアの生徒と協力しながら学び合い個に応じた学習する援助をする。

教科書Lesson4 part 1の内容を主にスモールステップを利用した音読によりSpeakingに転移できるように援助する。

Communication Competence育成に直接関わる「困った時表現」だけでなく、Productiveのレベルで定着させ授業の最適な場面ですでに使用させる。それにより英語でのコミュニケーションを成立、維持できるように援助する。

教科書Lesson4 part 1の英文を暗唱段階で高め、それらの英文を使った2 minute talk を段階的に行なう。その2 minute talk を通友達との英語でのコミュニケーションをする楽しさを知ってもらう。

授業の各場面で **英語を使おうとする積極的態度を評価し、主体的に英語で表現しようとする態度、能力を育成する。** これらの指導、支援により、生徒へ「**実践的コミュニケーション能力**」の育成、養成を図る。

6, 指導計画 (9時間ワンセット扱い) Lesson 3 Lesson 4 がワンセット
 1時間目 Lesson 3, Lesson 4 の新出単語, 熟語の意味と解説 (教室)
 Questions & Answers 101 120 までの解説
 現在完了経験用法の解説, SVOOCの英文解説

- 2時間目 Lesson 3 part 現在完了用法を使った言語活動 (FL)
- 3時間目 Lesson 3 part 現在完了用法を使った言語活動 (FL)
- 4時間目 Lesson 3 part 3本文 韓国に関するト-ク (FL)
- 5時間目 Lesson 3 part 4本文 小学校の遠足に関するト-ク (FL)
- 6時間目 Lesson 4 part 1本文 行ったことのある場所ト-ク (FL)
- 7時間目 Lesson 4 part 2本文 を使った言語活動 ink (FL)
- 8時間目 Lesson 4 part 3本文 -It を使った言語活動 to (FL)
- 9時間目 Lesson 3 Lesson 4 の本文解説, 文法事項確認問題 (教室)

7, 私の英語授業の視点

(1) 「劇場型」授業の展開

従来の英語の授業では, 文法解説や日本語訳を重視する典型的な知識注入型である文法訳読式の授業が主流で展開されてきた。しかし生徒各人の個性の育成や伸長, 自己教育力の育成を鑑みた場合は 従来の知識注入型の授業では 限界がきている感がある。それに反し, 「劇場型」の授業とは, 生徒全員が主役の参加型の授業を意味しているものである。それは 1) 生徒を劇場の観客に例え, 観客がそれぞれの映画や演劇から受ける感動や感想が異なるように, 各生徒が1時間の授業から学ぶものも異なり, 生徒各人が自己のペースや自己の観点で学べることを意味する。2) 生徒を劇場の演技者に見立て, 教師は1つの劇の脚本家・演出家になり, 演技者(各生徒)を引き立てる脚本(ティ-チングプラン)を書く。この脚本がよければ, 生徒は 生き生きした表情で授業に集中する。これら2つの視点を考慮した授業が「劇場型」授業であり, 私はほぼ毎時この形態の授業を展開している。

(2) カウンセリング的手法の授業への応用

教師は, その日の指導事項を教え込む教官ではなく, 生徒各人が, 学びたいことを学び, 学ばせる援助に徹底した方が 結局は生徒の為になる。

その援助の為には教師と生徒のラポ - ルの関係が必要になる。この授業では授業が始める前から（休憩時間）英語の音楽を流し，生徒が入退室する際，必ず英語で挨拶を交わすようにしている。授業中は，楽しい雰囲気，お互いを認め合い，ミスを気にしない雰囲気を醸し出す為に，教室の内装の工夫，BGMの利用，教材，教具や生徒配布シ - トの工夫を随所に行ない，教師はフレンドリ - な雰囲気で，授業を進行するようにしている。この効用で，教師はあくまでも援助に終始し，生徒各人が自主的に学習に参加し，生徒同士が認め合い，学び合う状態になりつつある。

2 「実践的コミュニケーション能力」を高める視点

方略的能力を高める視点

中学生段階における方略的能力の育成は，コミュニケーション能力を養成する上で 文法能力，社会言語学能力，そして談話能力育成以上に重要課題と考える。それは他の3つの能力（あるいは2つは）年齢が上がっていくに従い，より身に付きやすくなると考えられる。それに対して，この能力は 外国語学習入門期の段階で 最も中心的に身に付けておくべき能力と考える。（仮説 - 9 囀） 又，厳密には コミュニケ - ションへの積極的態度育成と方略的能力育成は異なるものであるが，両者間で *overlap* する部分も多いと考え，生徒の授業での積極性を重視する指導を展開している。

この授業での 方略的能力育成の指導は 授業の全体に及ぶようにしているものの，その為の指導を全面に出すようにはしていない。あくまでも平常の授業の中で ちょっとした指導の工夫，意識の違いで方略的能力を育成する授業にしていくことを目標としている。そんな中でも，活動 の *Warm - up* の2つの活動は 方略的能力を育成する基礎的な活動と考える。*Reading Stage* の中では *Pair Reading / Pair story - r* 談話能力を育成する指導にもつながり，2つの能力を育成する活動として有用と考える。そしてスモ - ルステップで高めていく *2 minute talk* は 対話を2分間維持させるために 方略的能力を駆使しなければならない。この活動は 談話能力育成にもつながるが，本時の授業の目標を達成する

為にとても有用な活動であると位置づけている。

談話能力を高める視点

この能力育成も 基本的理念は上記の(方略的能力育成)内容と同じである。しかし 方略的能力育成が 私の授業では 主に話し手中心の視点で考えられているのに対し、聞き手中心の視点で考慮されている。上記の Pair Reading / Pair Story Re-telling 等において、聞き手の発話を聞いて、すみやかにその発話内容を処理し、リアクションをするか。そしてそこにどのような指導を入れるかが談話能力育成の鍵とされている。例えば 2 min talk の途中段階で2人ペアの対話を別のペアが聞き、うなづきや質問を入れ、談話がより発展的に展開するように考慮している。談話の内容も Questions & Answers のみに終始するのではなくなるべく Initiative - - Response - - Follow-up のスパイラルがけるように配慮している。又 トピック内容も transactive なものではなく interactive なものになるようなテーマを選んでいる。

私の考えでは 談話能力育成は 論理的思考力、英語的発想(英語的談話展開)とも絡み合い、ある程度英語学習を重ねながら 身に付けていく方が効果的と考える。(仮説 - 9 9) 更に2つの能力の育成は 個々に別の活動によって養成していくものではなく、両者に相互作用しながら高まっていくものとする。

「実践的コミュニケーション能力」を育成する視点

上記の2つの competence を育成することが communicative competence 養成への近道と考えられる。もちろん grammatical competence social linguistic competence 育成も不可欠である。しかし前者は教科書の構成そのものが文法シラバスであるゆえ、最も定着に焦点があたりやすい事項である。後者は 英語の授業のみならず、校内外の様々な場面、状況から身に付けていくことが効果的であると考えられる。

更に「実践的～」という言葉に焦点を当てると、授業内のコミュニケーション活動に 場面、背景の具体的設定や real situation でのそのままの使用を念頭において、活動させることが重要であるとする。

9, 指導過程 (3枚目のプリントへ)

10 授業の評価の観点

教科: Lesson 4 part 1の本文内容を段階を追ったReadingやTFクイズ等で十分理解できたか。

Lesson 4 part 1の本文内容を暗唱, 発話の段階まで高め, それらの表現を使ったトークができたか。

communication: 指定された時間内で 英語での対話を維持し, 自分を言いたいことを対話相手に伝えることができたか。

相手の発話を聞き, 英語での確な応答をすることができたか。

教師: ALTとJTEが協力し, 役割分担が明確で, 生徒への援助を効果的に行うことができたか。

生徒各人が授業に楽しく参加し, 次の授業への意欲を持たせることができたか。